◆茅ヶ崎同盟教会たより　２０２４年2月

神よ　私はあなたを呼び求めました。あなたは私に答えてくださるからです。私に耳を傾けて私のことばを聞いてください。あなたの右の手で、奇しい恵みをお示しください。向かい立つ者どもから　身を避ける者を救う方。瞳のように私を守り、御翼の陰にかくまってください。　　詩篇１７：６～８

読まれた方がおられるかもしれませんが、朝日新聞に次の記事があり、深く考えさせられました。「受験も出産も控えていないいまでさえ、来年やその先のことを考えたくない。未来に対して、信頼度がゼロなのだ。」「同じ景色が」堀静香（タイムトラベル同人誌「超個人的時間旅行」所収）。これを選んだ鷲田清一氏は「深く息をしたその数秒後に何が起こるかわからないと言う感覚に日々浸されていると歌人は言う。」と歌人の思いを汲んでいます。

地震、戦争によって、映し出される映像は倒れた家々、破壊された瓦礫の山、たくさんの人々が一瞬にして亡くなり、悲しみに叫び、涙する人々の姿、日々突然起こるこの絶望的な現実を私たちは見て、不安ながらも期待する未来を考えたくはない信頼度ゼロというこの歌人の言葉に共感した人々が数多くおられたと思います。わたしもまた深く心に刺された言葉でした。でもでも、それでは未来があまりにも悲しい．．．。

上記の詩篇の詩人は命を狙われ、敵はまさにかみ裂こうとする飢えた獅子、待ち伏せしている若い獅子のようであると書かれています。今にも倒れそうな時、「主よ立ち上がり、彼の前に進み、打ちのめしてください」と祈っています。目の前に訴えられる方がおられる、耳を傾けてくださるお方がおられる。詩人は神様を呼び求め、神様は応えてくださるお方、救ってくださるお方と神を信じ望みを持っています。

暗い淵からの叫びを聞いていてくださるお方がおいでになることを忘れないで未来に対して少しでも信頼度を高めたいと思うのです。　　伝道師　川島正子